

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-162	A-169	22-085	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcohol's harm to others in Japan: Different rates for different relationships to the drinker in a 2018 national survey 日本におけるアルコールの他者への害：2018年全国調査における飲酒者との関係性の違いによる割合の違い			
執筆者			
Kinjo A, Kuwabara Y, Fujii M, Okada T, Shimogawa K, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Osaki Y.			
掲載誌			
Drug Alcohol Rev. 2023 Feb;42(2):456-466. doi: 10.1111/dar.13589.			
キーワード			PMID
アルコール、 家族、 性別、 他害、 職場			36471634
要 旨			
<p>背景： 日本において、アルコールの他害行為 (AHTO) について調査した研究はない。そこで本研究は、日本における AHTO の実態を明らかにし、飲酒者との関係から AHTO に関連する要因を検討することを目的とした。</p> <p>方法： 2018年に、男性2,121名、女性2,507名を対象にした横断的な調査を実施した。言葉や身体的な攻撃、飲酒を強要されたこと、セクシャルハラスメント、飲酒者との関係などの要因について質問した。二項ロジスティック回帰を行い、AHTOの有無(父親、配偶者、職場の同僚、知人、他人)と参加者の社会人口統計学的変数および飲酒パターン(Alcohol Use Disorder Identification Test: AUDIT)との関連を定量化した。</p> <p>結果： AHTOの生涯経験は、男性24.7%、女性19.3%であった。家庭内では父親から、家庭外では同僚からのAHTOが最も多かった。配偶者や同僚からのAHTOの頻度は、禁酒者と飲酒者で有意差はなかった。しかし、父親からのAHTOは、禁酒者よりも飲酒者、AUDITのスコアが8点以上の者に多く報告された。AHTO経験者のうち、男性の24.5%、女性の27.6%が家庭内で、男性の6.1%、女性の12.9%が家庭外でそれぞれAHTOの影響を受けていた。</p> <p>結論： 日本人の5人に1人が生涯にAHTOを経験しており、AHTOに関連する特徴は、影響を受けた個人と飲酒者との関係によって異なっていた。AHTOの継続的なモニタリングと、AHTOを含むアルコール関連危害の軽減を目指した対策を推進すべきである。</p>			